

## 古代の世界1 3回目

### 古代ローマ 要点学習

QWT5B1-Z1J3-01

#### 要点

#### 今回のPOINT

- ▶ 共和政期と帝政期のローマについて、政治・社会の両面からそれぞれの特徴を押さえる。
- ▶ キリスト教が国教化される過程や、ローマ文化の後世への影響についての理解を深める。

## 共和政ローマ

### ◆都市国家ローマ

#### (1)共和政ローマの成立

##### ◎王政から共和政へ

- 前10世紀頃にイタリア半島に定住したイタリア人の一派であるラテン人が、ティベル川のほとりに都市国家**ローマ**を建国した。
- ローマは、先住民の**エトルリア人**の支配を受けたが、前6世紀末にエトルリア人の王を追放し、**共和政**を樹立した。

##### ◎貴族による支配

- ローマの共和政では、**貴族**（パトリキ）が**コンスル**（しっせいかん執政官，統領）を初めとする様々な官職を独占したほか、政治上の最高機関である**元老院**（げんろういん）の議員として国政を指導した。また、非常時には、独裁権を行使できる**独裁官**（ディクタトル）が置かれた。

#### (2)貴族と平民の身分闘争

- **平民**（プレブス）は当初、参政権を認められていなかったが、やがて重装歩兵として軍勢力の中核となると、参政権などを求めて貴族と争った。これを**身分闘争**という。
- 前5世紀初めには、平民を保護するため、元老院やコンスルの決定に対する拒否権を持つ**護民官**（ごみんかん）が設置され、次いで平民のみで構成される民会である**平民会**が設置された。
- 前5世紀半ばには、ローマ最古の成文法である**十二表法**が制定された。  
…十二表法は従来の慣習法を成文化したもので、これにより貴族による法知識の独占が破られ、平民の地位向上につながった。
- 前367年には**リキニウス・セクスティウス法**が制定され、定員2名のコンスルのうち、1名を平民から選出することが定められた。
- 前287年、**ホルテンシウス法**により、平民会の議決が元老院の承認を経なくても国法となることが定められた。  
→これにより、貴族と平民の法的平等が達成され、身分闘争は一応の終結を見た。

## ◆ローマの発展と変質

### (1)ポエニ戦争

- 前3世紀にイタリア半島を統一したローマは、次いで、地中海西方を支配していたフェニキア人の植民地である北アフリカの**カルタゴ**と衝突し、**ポエニ戦争**（前264～前146）が起こった。
- 第1回ポエニ戦争**（前264～前241）：ローマが勝利し、シチリア島を**属州**とした。

#### ✓ ここもチェック 属州

イタリア半島以外のローマの支配地をさす。ローマから任命された総督が、軍事力を背景として統治した。

- 第2回ポエニ戦争**（前218～前201）：カルタゴの將軍**ハンニバル**がイタリア半島に侵攻し、ローマを圧倒した。しかし、ローマの將軍**スキピオ**がカルタゴ本国を攻撃し、最終的にローマが勝利した。
- 第3回ポエニ戦争**（前149～前146）：ローマがカルタゴを滅ぼした。

#### ▼第2回ポエニ戦争



### (2)中小農民の没落とラティフンディアの発展

- ローマでは、長年の戦争などで農地が荒廃したほか、属州から安価な穀物が大量に流入するなどしたため、中小農民が急速に没落した。
- 一方で貴族などの有力者は、ローマの領土拡大に伴って広大な土地を所有するようになり、奴隷を用いて大農場を経営した。  
…このような大土地所有制を**ラティフンディア**という。
- 貧富の差が拡大する中で社会は動揺し、市民の平等を原則とするローマの共和政は揺らいだ。

### (3) グラックス兄弟の改革と内乱の1世紀

- 前2世紀後半に護民官となった**グラックス兄弟**は、無産市民に土地を分配して、中小農民層の復活と軍隊の再建をめざしたが、激しい反対に遭って挫折した。
- グラックス兄弟の改革後、有力者は無産市民を集めて私兵とし、元老院の権威を重んじる**閥族派**と、民会に基盤を置く**平民派**に分かれて抗争した。  
…閥族派の**スラ**と平民派の**マリウス**がそれぞれ私兵を率いて争った。
- 前91年、イタリア半島の同盟市がローマ市民権を要求して反乱を起こした（**同盟市戦争**；～前88）。また、前73年には、**剣奴**（**剣闘士**）の**スパルタクス**を中心に、奴隷たちが大反乱を起こした（～前71）。  
→このような、グラックス兄弟の改革以降のローマの混乱期を“**内乱の1世紀**”と呼ぶ。

#### ☑ ここもチェック 同盟市

共和政ローマと条約によって同盟していた都市で、自治権は与えられていたが、ローマ市民権は与えられていなかった。

- 前60年、国内の混乱を鎮めた実力者である**ポンペイウス・クラッスス・カエサル**の3人が、私的な盟約を交わし、元老院に対抗して政権を握った（**第1回三頭政治**；～前53）。
- 優秀な軍人・政治家であった**カエサル**は、**ガリア遠征**（前58～前51）に成功して勢力基盤を強固にし、元老院と提携したポンペイウスを倒して、独裁政治を行った。  
→独裁に反発した共和主義者のブルトゥスらによって、前44年にカエサルは暗殺された。
- カエサル死後の前43年、彼の養子であった**オクタウィアヌス**が、**アントニウス・レピドゥス**とともに**第2回三頭政治**を開始した。  
→オクタウィアヌスは、政敵となったアントニウスとプトレマイオス朝の女王**クレオパトラ**（位前51～前30）の連合軍を、前31年の**アクティウムの海戦**で破った。
- 前30年にプトレマイオス朝が減び、ローマはエジプトを属州として、地中海全域の支配権を得た。

#### 📖 整理しよう 三頭政治

2度の三頭政治とそれぞれの結果を押さえよう。

▶ 第1回三頭政治……ポンペイウス・クラッスス・カエサル  
→カエサルの独裁政治

▶ 第2回三頭政治……オクタウィアヌス・アントニウス・レピドゥス  
→オクタウィアヌスとアントニウスの対立ののち、オクタウィアヌスが勝利

## ローマ帝国

### ◆ローマ帝国の繁栄

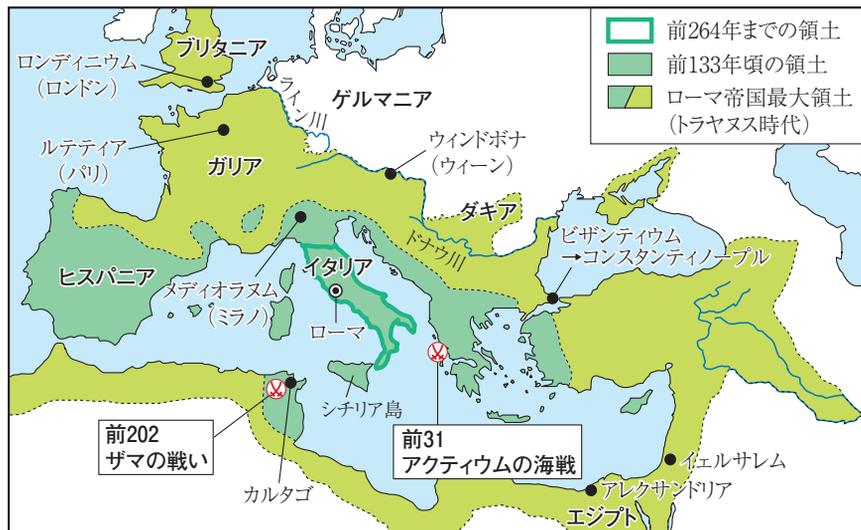
#### (1) 帝政ローマ (ローマ帝国) の成立

- オクタウィアヌスは、前27年に元老院から**アウグストゥス** (尊厳者) の称号を贈られて、**元首政** (プリンキパトゥス) を開始した。
- …オクタウィアヌスは、**プリンケプス** (第一の市民) を自称して共和政の伝統を尊重したが、実際には政治・軍事における権限をほとんど握っており、事実上の皇帝独裁を行った。

#### (2) パクス = ロマーナ

- 前27年に事実上の帝政が開始されてからの約200年間、ローマ帝国の政治体制は安定し、平和な時代が続いた。この時代を**パクス = ロマーナ** (ローマの平和) という。
- この時代の後半には、**五賢帝** と総称されるネルウァ、トラヤヌス、ハドリアヌス、アントニヌス = ピウス、マルクス = アウレリウス = アントニヌスの5人の皇帝が在位し (後96~180)、ローマ帝国は最盛期を迎えた。
- …**トラヤヌス** (位98~117) は、**ダキア** (現在のルーマニア) を属州とするなど、ローマ帝国の最大領土を実現した。

#### ▼ローマ帝国の領土



## ◆ローマ帝国の混乱

### (1) 3世紀の危機

#### ◎軍人皇帝時代

- 3世紀のローマ帝国は、ゲルマン人やササン朝の侵入を受けて、その支配力に衰えが見え始めていた。
- 帝国内では、各地の軍団が次々と皇帝を擁立・<sup>ようりつ</sup>廃位して争った。  
…この混乱の時代は**軍人皇帝時代** (235~84) と呼ばれ、約50年間に26人の軍人皇帝が相次いで即位した。

#### ◎コロナトゥス

- ローマ帝国が混乱する中、国内では奴隷制に基づくラティフンディアが行き詰まり、代わって**コロナトゥス**と呼ばれる土地経営が普及した。  
…有力者が没落した農民や解放奴隷などを**コロヌス** (小作人) として自らの所領で働かせた。

### (2) 専制君主政 (ドミナトゥス) 成立以後のローマ

#### ◎ディオクレティアヌスの時代

- <sup>せんせいくんしゅせい</sup>**専制君主政** (ドミナトゥス) : 284年に即位した**ディオクレティアヌス** (位~305) は、軍人皇帝時代の混乱を收拾して官僚制の整備や皇帝崇拜の強制を行い、皇帝専制政治を始めた。
- <sup>していぶんちせい</sup>**四帝分治制** (テトラルキア) : 広大な帝国の領土を東西に分け、それぞれに正帝と副帝を立てて統治を分担させた。

#### ◎コンスタンティヌスの時代

- 4世紀前半に在位した**コンスタンティヌス** (位306~37) は、313年のミラノ勅令でキリスト教を公認し、教義統一のため25年にニケーア公会議を開催した。
- 330年には東方の**コンスタンティノーブル**<sup>せんと</sup>に遷都した。

#### ◎テオドシウスの時代

- 375年にゲルマン人の大移動が始まると、ローマ帝国の混乱は深まった。379年に即位した**テオドシウス** (位~395) は一時的に混乱を鎮めたが、死に際して**帝国を東西に分割した**。
- テオドシウスの時代には、キリスト教がローマ帝国の国教とされた。

## ◆キリスト教と古代ローマの文化

### (1) キリスト教の成立と発展

#### ◎イエスの登場

- ローマ帝国の支配下にあったパレスチナでは、1世紀に**イエス** (イエス = キリスト) が現れ、ユダヤ教の祭司たちの墮落や形式的な戒律主義<sup>かいりつ</sup>を批判した。
- イエスは、分け隔てなく平等に与えられる神の絶対愛と隣人愛を説いた。
- イエスの教えはユダヤ教の有力者の反発を買い、彼らの訴えを受けたローマのユダヤ総督ピラトによってイエスは処刑された。  
→イエスの刑死後、弟子の間で、イエスをメシア (救世主, キリスト) と見なす信仰が広がり、**キリスト教**が成立した。

◎キリスト教の拡大と迫害

- 十二使徒の筆頭とされるペテロや、異邦人（ユダヤ人以外の人々）への伝道を行い“異邦人の使徒”と呼ばれたパウロなどの使徒が、ローマ帝国内にキリスト教を広めた。
- キリスト教は、まず下層市民や奴隷に受け入れられ、のちに上層階級にも広まった。
- 2世紀頃までに、イエスの言行や使徒の活動などをまとめた『新約聖書』が成立した。
- 唯一神を信仰するキリスト教徒は、ローマの伝統的な多神教の神々を信仰せず、皇帝崇拝を拒絶した。そのため、キリスト教の拡大を警戒したローマ皇帝は、ネロ（位54～68）による迫害以降、ディオクレティアヌスによる303年の大迫害まで、たびたびキリスト教徒を迫害した。

☑ ここもチェック 使徒

イエスの直弟子のこと。パウロはのちに使徒に加えられた。

◎キリスト教の公認

- 313年、コンスタンティヌスが発したミラノ勅令により、キリスト教が公認された。
- 325年に開かれたニケーア公会議では、イエスを神と同一視するアタナシウスの説が正統とされ、イエスを人間であるとするアリウスの説は異端とされた。  
→アタナシウスの説はのちに、父なる神、子なるイエス、聖霊を等質で不可分なものとなす三位一体説に発展した。
- 4世紀後半にユリアヌス（位361～63）がローマ古来の多神教を復活させようとしたが、失敗に終わった。

◎キリスト教の国教化

- 392年にテオドシウスが異教の信仰を禁止し、キリスト教がローマ帝国の国教とされた。
- 431年に開かれたエフェソス公会議で、神としてのイエスと人間としてのイエスを分けることを唱えたネストリウスの説が異端とされた。  
→ネストリウス派は異端とされたのち東方に伝わり、中国では景教と呼ばれた。

◎教父の活動

- 初期のキリスト教会では、教父と呼ばれる人々が正統教義の確立に努めた。なかでも最大の教父とされるアウグスティヌスは『神の国』や『告白録』を著した。

▼古代キリスト教関連図



☑ ここもチェック ミトラ教

ローマ帝国時代に軍人を中心に流行した密儀宗教。キリスト教の拡大に伴い衰退した。

# [見本] 高校コース 本科 世界史 要点学習 (要点)

## (2)古代ローマの文化

### ◎文学

- アウグストゥスの時代を中心に**ラテン語**の文学作品が多く書かれ、“ラテン文学の黄金時代”と呼ばれる。
- 主な人物と事績

<b>キケロ</b> (前2～前1世紀)	弁論家として有名。代表作『 <b>国家論</b> 』はラテン語散文の模範とされる。
<b>ウェルギリウス</b> (前1世紀)	代表作はローマの建国叙事詩『 <b>アエネイス</b> 』。 …ホメロスの影響が見られる。
ホラティウス (前1世紀)	アウグストゥスの時代に活躍した。代表作は『 <b>叙情詩集</b> 』。
オウィディウス (前1～後1世紀)	アウグストゥスの時代に活躍した。代表作は『 <b>愛の歌</b> 』『 <b>転身譜</b> 』。

### ◎哲学

- ヘレニズム時代以来の**ストア派**が大きな影響力を持った。
- 主な人物と事績

<b>セネカ</b> (前1～後1世紀)	ストア派の哲学者で、皇帝ネロの師を務めたことでも知られる。代表作は『 <b>幸福論</b> 』。
<b>マルクス=アウレリウス=アントニヌス</b> (2世紀)	五賢帝の最後の皇帝。ストア派の哲学者でもあり、“哲人皇帝”として知られる。代表作は『 <b>自省録</b> 』。

### ◎歴史・地理

- 主な人物と事績

<b>ポリビオス</b> (前2世紀頃)	ギリシア人の歴史家で、第3回ポエニ戦争に随行したことで知られる。『 <b>歴史</b> 』で政体循環史観を示した。
<b>カエサル</b> (前1世紀)	ガリア遠征を記録した『 <b>ガリア戦記</b> 』は、古ケルト人・古ゲルマン人研究の重要史料とされる。
<b>リウィウス</b> (前1～後1世紀)	代表作は『 <b>ローマ史</b> (ローマ建国以来の歴史)』。アウグストゥスに厚遇された。
<b>タキトゥス</b> (後1～2世紀)	代表作の『 <b>ゲルマニア</b> 』は大移動前のゲルマン人の記録として重要。歴史書の『 <b>年代記</b> 』を著した。
<b>プルタルコス</b> (後1～2世紀)	代表作の『 <b>対比列伝</b> (英雄伝)』で古代ギリシアと古代ローマの著名人を対比して描いた。
<b>ストラボン</b> (前1～後1世紀)	ギリシア人の地理・歴史学者。代表作は『 <b>地理誌</b> 』。

◎自然科学

- 共和政末期の前1世紀にカエサルが太陽暦である**ユリウス暦**を採用した。
- **プリニウス**：後1世紀に活躍した博物学者で、『博物誌』を著した。ウェスウィウス火山の噴火に際し視察に<sup>おもむ</sup>き、殉職した。
- **プトレマイオス**：2世紀に活躍したギリシア人の天文学者で、『天文学大全』を著した。天動説を唱え、のちのヨーロッパの宇宙観に大きな影響を与えた。

◎ローマ法

- 十二表法以来のローマ法は、初めローマ市民のみに適用される**市民法**であったが、領土と市民権の拡大に伴い、普遍的な**万民法**へと発展した。  
→東ローマ帝国（ビザンツ帝国）のユスティニアヌス（位527～65）が、その集大成として『ローマ法大全』を<sup>へんさん</sup>編纂させた。

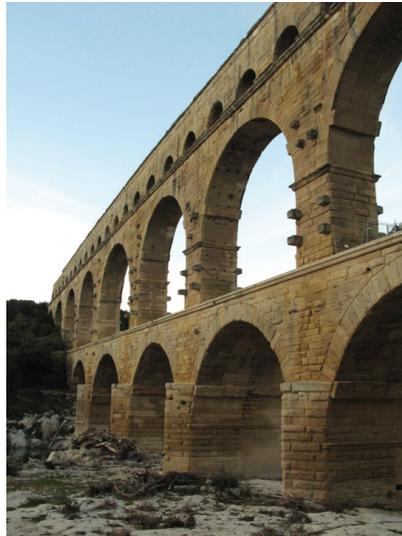
◎土木・建築技術

- ローマ人はローマ法や土木・建築技術といった実用的な分野において、優れた文化的業績を残した。
- 各地の都市に浴場・<sup>がいせんもん</sup>凱旋門・闘技場などが築かれ、道路や水道橋などの整備も進められた。
- **コロッセウム**（円形闘技場）：1世紀に建設された闘技場で、ローマに現存する。剣奴の試合などが見世物として行われた。
- **パンテオン**（万神殿）：ローマ古来の多神教の神々を<sup>まつ</sup>祀る神殿。ハドリアヌスの時代に再建されたものがローマに現存する。
- **アッピア街道**：ローマと南イタリアを結ぶ軍道。
- **ガール水道橋**：フランス南部に現存する石造の水道橋。

▼コロッセウム



▼ガール水道橋



練習問題

1 次の文章を読んで、1～8 [ ] に適する語句を記せ。

ローマは、イタリア人の一派のラテン人が、イタリア半島中部のティベル川のほとりに建設した都市国家から興り、前6世紀末に [ 1 ] 人の王を追放して、政治上の最高機関である [ 2 ] を中心に貴族が実権を握る共和政を開始した。やがて、平民が参政権などを要求して貴族と争い、前5世紀初めには平民の権利を擁護する護民官や平民会が置かれた。前367年にはリキニウス・セクスティウス法によって、最高官職のコンスルのうち1名を平民から選出することとなった。さらに、前287年の [ 3 ] 法によって平民会の決議がそのまま国法とされるようになり、貴族と平民の法的平等が達成された。

前3世紀前半にイタリア半島を統一したローマは、北アフリカのカルタゴとの間に3回にわたる [ 4 ] 戦争を起こした。第1回の戦いに勝利したローマは、最初の属州として [ 5 ] 島を得た。第2回の戦いでは、カルタゴの将軍ハンニバルの侵略によりローマは危機に陥ったが、最終的には勝利を取め、さらに第3回の戦いでカルタゴを滅ぼした。戦争後のローマでは、対外的発展の一方で、社会の変質により中小農民が没落した。前2世紀後半には中小農民層の復活のために [ 6 ] 兄弟が改革を行ったが、失敗に終わった。こうした中、 [ 2 ] の権威を重んじる閥族派と、民会を基盤とする平民派との対立が起こるなどし、ローマは混乱状態に陥った。

やがて実力者のポンペイウス・クラッスス・カエサルが第1回三頭政治を開始した。クラッススがパルティア遠征で戦死すると、まもなくカエサルはポンペイウスを打倒し、独裁政治を行ったが、共和主義者に暗殺された。カエサルの死後、彼の養子の [ 7 ] とアントニウス・レピドゥスが第2回三頭政治を開始した。やがて [ 7 ] が、プトレマイオス朝の女王 [ 8 ] と結んだアントニウスを前31年のアクティウムの海戦で破り、翌年にエジプトを属州として地中海全域の支配を完成した。

【解答欄】

1		2	
3		4	
5		6	
7		8	

# [見本] 高校コース 本科 世界史 要点学習(練習問題)

2 次の文章を読んで、各問に答えよ。

ローマ帝国は1世紀末から2世紀後半にかけての①五賢帝時代に最盛期を迎え、ローマ帝国の領土は2世紀前半に最大となった。また、政治参加などの法的特権を含むローマ市民権は次第に属州民にも拡大され、3世紀前半には②帝国内の全自由民に市民権が付与されるようになった。しかし、3世紀半ばから帝国各地の軍団が力を増し、③軍団に擁立された皇帝が短期間に次々と即位する混乱の時代を迎え、帝国の政治は大きく動揺した。また、こうした中、土地経営においても奴隷制に基づくラティフンディアが行き詰まり、代わって、有力者が没落した農民や解放奴隷などを小作人として使役する(④)が普及した。

こうした動揺を收拾するため、3世紀後半に即位したディオクレティアヌスは、皇帝の権威を強化した専制君主政を開始し、帝国の領土を東西の2正帝・2副帝によって分割して統治する(⑤)を行った。4世紀前半には⑥コンスタンティヌスがキリスト教を公認し、都をコンスタンティノーブルへ遷すなど、帝国の安定化をはかったが、混乱は収まらず、395年にローマ帝国は東西に分割された。東ローマ帝国(ビザンツ帝国)はその後も1000年以上存続したが、西ローマ帝国はゲルマン人の大移動による混乱の中で滅亡した。

問1 下線部①に関して、「五賢帝」の最後の皇帝で、ストア派の哲学者としても知られるのはだれか。

問2 下線部②に関して、「市民権」の拡大に伴って、初めローマ市民のみに適用されていたローマ法は、すべての人に等しく適用されるようになった。こうした法を何と呼ぶか。

問3 下線部③に関して、この「混乱の時代」を何と呼ぶか。

問4 空欄④に適する語句を記せ。

問5 空欄⑤に適する語句を記せ。

問6 下線部⑥に関して、「コンスタンティヌス」が「キリスト教を公認」した勅令は何か。

## 【解答欄】

問1		問2	
問3		問4	
問5		問6	

3

### 論述問題対策

今回は論述問題の解法を学習していこう。次の例題について、はじめにと、解法の研究を読みながら空欄を埋めていき、解答を作成してみよう。

#### 例題

ポエニ戦争後のローマで中小農民が没落した背景を、食糧供給と土地経営制度の観点から60字以内で説明せよ。

#### はじめに

##### 論述問題を解く手順

論述問題とは、文章で解答する問題である。所定の字数で設問の要求に過不足なく答えるためには、思いつくままに解答を書くのではなく、解答の構成を検討してから解答を作成する必要がある。

論述問題を解く際は、まず設問の要求と解答の条件を確認し、解答の構成を考えながら必要な事項を具体的に書き出し、それらを整理して文章にまとめる、という手順で進めるとよい。

#### 5W1H1Rを意識する

解答の構成を考える際に次の5W1H1Rを意識することで、必要な要素を過不足なく盛り込んだ解答を組み立てやすくなる。

#### 5W1H1R

- ① when…ある事象の起こった「時」
- ② where…ある事象の起こった「場所」
- ③ who・whom…ある行動の「主体(だれが)」や「対象(だれを, だれに対して)」
- ④ what…ある事象の「内容」
- ⑤ why…ある事象が起こった「背景」「理由」
- ⑥ how…ある事象の「過程」「方法」
- ⑦ result…ある事象の「結果」「影響」

設問の要求・条件に応じて、5W1H1Rのうち求められている要素を取捨選択して、解答を作成しよう。

#### 解法の研究

##### STEP1 設問の要求と解答の条件を確認する

ここからは実際に例題に基づいて考えていこう。論述問題では、設問が何を求め



練習問題 解答

1

- 1 エトルリア    2 元老院    3 ホルテンシウス    4 ポエニ  
5 シチリア    6 グラックス    7 オクタウィアヌス    8 クレオパトラ

2

- 問1 マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス    問2 万民法  
問3 軍人皇帝時代    問4 コロナトゥス    問5 四帝分治制(テトラルキア)  
問6 ミラノ勅令

3

空欄の解答

- ① 属州    ② 奴隷    ③ ラティフンディア

**例題**の解答

属州から安価な穀物が大量に流入したほか、有力者が奴隷を用いた大農場経営であるラティフンディアを行うようになったため。(58字)

M・E・M・O

# [見本] 高校コース 本科 世界史 要点学習 (確認問題)

## 確認問題

次の問に適する答を、それぞれの【語群】の中から1つ選び、○をつけよ。

- (1) 前5世紀初めのローマで、平民の保護を目的に設置された官職はどれか。  
【語群】 コンスル      護民官      独裁官
- (2) 前5世紀半ばに制定された、ローマ最古の成文法はどれか。  
【語群】 十二表法      リキニウス・セクスティウス法      ホルテンシウス法
- (3) 第2回ポエニ戦争でイタリア半島に侵攻したが、最終的にローマ軍に敗れたカルタゴの将軍はどれか。  
【語群】 スキピオ      ハンニバル      スパルタクス
- (4) 国内の混乱を鎮めたカエサルらにより前60年から第1回三頭政治が行われたが、その後カエサルは独裁政治を行い、暗殺された。カエサルの死後、第2回三頭政治がオクタウィアヌス・[      ]・レピドゥスによって行われた。[      ]に入る人名はどれか。  
【語群】 ポンペイウス      アントニウス      クラッスス
- (5) アウグストゥスの称号を受けたオクタウィアヌスは、政治・軍事におけるほとんどの権限を掌握し、事実上の皇帝独裁である [      ] を開始した。[      ] に入る語句はどれか。  
【語群】 元首政      貴族政      共和政
- (6) 後3世紀後半に即位して軍人皇帝時代の混乱を收拾し、官僚制の整備や皇帝崇拜の強制などを行い、皇帝専制政治を行った皇帝はどれか。  
【語群】 コンスタンティヌス      テオドシウス      デイオクレティアヌス
- (7) 325年のニケーア公会議において異端とされた、イエスを人間であるとする教説を唱えたのはどれか。  
【語群】 アリウス      アタナシウス      ネストリウス
- (8) 1世紀に活躍したローマの博物学者で、『博物誌』を著したのはどれか。  
【語群】 プトレマイオス      プリニウス      ストラボン

確認問題 解答

- (1) 護民官 (2) 十二表法 (3) ハンニバル (4) アントニウス  
(5) 元首政 (6) デイオクレティアヌス (7) アリウス (8) プリニウス

# [見本] 高校コース 本科 世界史 添削問題

※ここからは『Z Study 解答用紙編』の世界史「古代の世界1」3枚目にご記入ください。

3

次の年表を見て、各問に答えよ。(25点)

前494 ( ① ) の設置	前31 ( ⑤ ) の海戦でエジプトを破る
前5世紀半ば 十二表法制定	前27 元首政(プリンキパトゥス)開始
前287 ②ホルテンシウス法成立	後96～180 ⑥五賢帝時代
前264～前146 ③ポエニ戦争	284 専制君主政開始
前133～前121 グラックス兄弟の改革	395 ⑦ローマ帝国の東西分裂
前73～前71 スパルタクスの反乱	
前60～前53 ④第1回三頭政治	

- 問1 空欄①に適する、平民の利益を守るための官職の呼称を記せ。(3点)
- 問2 下線部②に関して、「ホルテンシウス法」の内容とその意義について、50字以内で説明せよ。(6点)
- 問3 下線部③の「ポエニ戦争」について、次の(1)・(2)の間に答えよ。
- (1) 第1回「ポエニ戦争」でローマはシチリア島を獲得した。シチリア島を最初とする、イタリア半島以外のローマの支配地の呼称を記せ。(3点)
  - (2) 「ポエニ戦争」などの対外戦争が進む中、ローマ国内では、戦いに従軍した中小農民が没落した。その一方で、広大な土地を所有するようになった貴族や、富裕な平民による大農地経営が発達した。このような大土地所有制を何というか、カタカナで記せ。(3点)
- 問4 下線部④に関して、「第1回三頭政治」に参加した人物として誤っているものを、次のア～エの中から1人選び、記号を記せ。(2点)
- ア ポンペイウス    イ マリウス    ウ クラッスス    エ カエサル
- 問5 空欄⑤に適する語句を記せ。(3点)
- 問6 下線部⑥に関して、「五賢帝」の1人に数えられ、ローマ帝国の最大領土を実現した皇帝を、次のア～エの中から1人選び、記号を記せ。(2点)
- ア ハドリアヌス    イ オクタウィアヌス    ウ デイオクレティアヌス  
エ トラヤヌス
- 問7 下線部⑦に関して、その死に際して「ローマ帝国」を「東西」に分割した皇帝の名を記せ。(3点)

3

次の年表を見て、各問に答えよ。

(25点)

前494	( ① ) の設置	前31	( ⑤ ) の海戦でエジプトを破る
前5世紀半ば	十二表法制定	前27	元首政(プリンキパトゥス)開始
前287	②ホルテンシウス法成立	後96~180	⑥五賢帝時代
前264~前146	③ポエニ戦争	284	専制君主政開始
前133~前121	グラックス兄弟の改革	395	⑦ローマ帝国の東西分裂
前73~前71	スパルタクスの反乱		
前60~前53	④第1回三頭政治		

問1 空欄①に適する、平民の利益を守るための官職の呼称を記せ。(3点)

問2 下線部②に関して、「ホルテンシウス法」の内容とその意義について、50字以内で説明せよ。(6点)

問3 下線部③の「ポエニ戦争」について、次の(1)・(2)の間に答えよ。

(1) 第1回「ポエニ戦争」でローマはシチリア島を獲得した。シチリア島を最初とする、イタリア半島以外のローマの支配地の呼称を記せ。(3点)

(2) 「ポエニ戦争」などの対外戦争が進む中、ローマ国内では、戦いに従軍した中小農民が没落した。その一方で、広大な土地を所有するようになった貴族や、富裕な平民による大農地経営が発達した。このような大土地所有制を何というか、カタカナで記せ。(3点)

問4 下線部④に関して、「第1回三頭政治」に参加した人物として誤っているものを、次のア~エの中から1人選び、記号を記せ。(2点)

ア ポンペイウス    イ マリウス    ウ クラッスス    エ カエサル

問5 空欄⑤に適する語句を記せ。(3点)

問6 下線部⑥に関して、「五賢帝」の1人に数えられ、ローマ帝国の最大領土を実現した皇帝を、次のア~エの中から1人選び、記号を記せ。(2点)

ア ハドリアヌス    イ オクタウィアヌス    ウ デイオクレティアヌス  
エ トラヤヌス

問7 下線部⑦に関して、その死に際して「ローマ帝国」を「東西」に分割した皇帝の名を記せ。(3点)

## 解答

問1 護民官

問2 平民会の議決が元老院の承認を経なくても国法となることが定められ、貴族と平民の法的平等が達成された。(49字)

問3 (1) 属州 (2) ラティフンディア 問4 イ 問5 アクティウム

問6 エ 問7 テオドシウス

## 解説

問1 古代ローマでは前6世紀末に共和政が樹立されたが、貴族が**コンスル**（執政官、統領）を初めとする様々な官職を独占したほか、**元老院**の議員として国政を指導していた。前494年、平民と貴族の間に大規模な身分闘争が起こったことをきっかけに、平民の利益を守る**護民官**が設置された。護民官は元老院やコンスルの決定に対する拒否権を持った。

問2 ローマでは、平民会の議決は平民のみを拘束し、それを国法とするには元老院の承認が必要であったが、非常時に独裁権を行使できる臨時職である独裁官（ディクタトル）に選出されたホルテンシウスは、前287年、**元老院の承認を経なくても平民会の議決を国法として認める**という**ホルテンシウス法**を成立させた。これにより、**貴族と平民の法的な平等が達成**され、身分闘争は終了した。しかし、政治上の実権は、新たに台頭した富裕な平民たちが元老院とともに握り続けた。

### 解答の組立て

ホルテンシウス法の「内容」と「意義」の2点について述べるのが求められている。「意義」としては、ホルテンシウス法が、それまで貴族と平民の間で展開されていた身分闘争を終結させたという結果をもたらしたことに着目し、その点からホルテンシウス法の歴史的な重要性を考察しよう。

<内容>

- ・平民会の議決が元老院の承認を経なくても国法となる

<意義>

- ・貴族と平民の法的な平等が達成された

以上を簡潔にまとめよう。

問3 (1) 前9世紀、フェニキア人の都市国家ティルスは、北アフリカに植民市のカルタゴを建設した。ローマはカルタゴと西地中海の覇権を争い、3回にわたる**ポエニ戦争**（前264～前146）を戦った。第1回ポエニ戦争（前264～前241）ではローマがカルタゴを破り、当時、最大の穀物生産地として知られた**シチリア島**を獲得した。シチリア島を最初とするイタリア半島以外のローマの支配地を**属州**という。

# [見本] 高校コース 本科 世界史 解答解説

(2) ポエニ戦争などによるローマの勢力拡大は、農地の荒廃や属州からの安価な穀物の流入などにより、戦争に従軍した**中小農民の没落**を招いた。一方で、貴族や富裕な平民は、没落した農民から土地を買い集めたり、ローマが征服した領土を私有したりすることで、広大な土地を手に入れた。このような土地では、奴隷を使役してブドウやオリーブなどの栽培が行われた。こうした大土地所有制を**ラティフンディア**という。

問4 前60年、元老院と対立した閥族派の**ポンペイウス**、平民派の**カエサル**、大富豪の**クラッス**が密約を交わし、**第1回三頭政治**を始めた。前53年にクラッスがパルティア遠征で戦死したのち、カエサルを恐れたポンペイウスが元老院に接近したため、第1回三頭政治は解消された。なお、イの**マリウス**は前2世紀末～前1世紀初めの政治家で、平民派に属して閥族派のスラと争い、無産市民を集めて私兵とする軍制改革を行った。

問5 前31年、ローマの**オクタウィアヌス**は、エジプトのプトレマイオス朝の女王**クレオパトラ**（位前51～前30）と結んだ政敵の**アントニウス**を**アクティウムの海戦**で撃破した。前30年にプトレマイオス朝は滅亡し、ローマはエジプトを属州として、地中海全域を支配することとなった。

問6 ローマの五賢帝2人目の皇帝**トラヤヌス**（位後98～117）は、現在のルーマニアに当たるダキアを属州とし、ローマ帝国の最大領域を実現した。なお、**ア**の**ハドリアヌス**（位117～138）は五賢帝3人目の皇帝、イの**オクタウィアヌス**はアウグストゥスの称号を受けて元首政（プリンキパトゥス）を開始したローマの初代皇帝（位前27～後14）、**ウ**の**ディオクレティアヌス**（位284～305）は軍人皇帝時代の政治的混乱を收拾し、専制君主政（ドミナトゥス）を開始した皇帝である。

問7 **テオドシウス**（位379～95）は、375年に始まったゲルマン人の大移動などで混乱するローマ帝国の再統一を進め、92年にはキリスト教を国教化した。しかし、395年の死去に際して帝国を東西に分割し、2人の息子に分与した。

## ▼ローマの身分闘争の展開

護民官の設置 (前494)	平民会の選挙で選出される。 平民の生命や財産の保護を目的とした。
十二表法の制定 (前5世紀半ば)	従来の慣習法を成文化し、貴族による法知識の独占を破った。
リキニウス・セクスティウス法の制定 (前367)	2名のコンスル（執政官）のうち、1名を平民より選出。 ⇨平民へ官職を開放。 公有地の占有に制限を加える。
ホルテンシウス法の制定 (前287)	元老院の承認を経なくても平民会の議決をローマの国法とすることができる。 ⇨法制度上、平民と貴族が対等になる。 貴族と平民の身分闘争の終結。

会員番号

QRコードで個別管理しているため氏名の記入は不要です。

# 解答用紙

禁無断転載



この答案の添削有効期限は \_\_\_\_\_ です。

※解答は、濃く、はっきりとご記入ください。

3/4枚目  
RWA5BB-Z2D3

総得点 17 / 25

## 古代の世界 1

### 添削問題

3 QWT5B1-Z1C3

1  
3 / 3

問1

護民官

「元老院の承認を経なくても」国法として認められたことを押さえよう。(−2)

2  
4 / 6

問2

平民会の決議が国法となるという  
ことが定められ、貴族と平民の立  
場が平等になった。

法律上の立場が平等になったこと（法的平等）がポイントである。

3  
3 / 3

問3 (1)

属州

初の属州となったシチリア島は、当時最大の穀物生産地であった。

4  
0 / 3

(2)

コロナトゥス

ポエニ戦争後に広まった大土地所有制は、ラティフンディアである。コロナトゥスはローマ帝政末期に、ラティフンディアに代わって行われた。

[見本] 高校コース 本科 世界史 添削見本

今回の添削問題以外の質問は「教えてZ会!」で受け付けています。※質問方法は「学習ガイド」でご確認ください。

答案感想欄	添削者からのオススメ復習用教材	添削者名
<p>論述問題がわからなかった ので、教科書を使って 書きました。</p>	<p>3回目 要点 ◆都市国家ローマ 3回目 要点 ◆ローマの発展と変質 3回目 要点 ◆ローマ帝国の繁栄</p>	三島
	<p>添削者より</p> <p>しっかりと取り組めていました。共和政ローマの身分闘争はとても重要なテーマです。用語の暗記だけでなく、その出来事の意義も確認しながら整理していくとよいですね。論述問題は書き慣れることが大切ですから、最初は調べながらでかまわないので、積極的に取り組みましょう。</p>	
<p>教科書・参考書等を使って解きましたか(はい・いいえ) 授業でこの範囲をもう習いましたか(はい・いいえ)</p>		

5  
2 / 2 問4

6  
2 / 3 問5

空欄の後の語句との重複に注意しよう。  
(-1)

7  
0 / 2 問6

イのオクタウィアヌスは、元首政を始めたローマ帝国の初代皇帝である。ローマ帝国の最大領域を実現したのは、五賢帝の2人目であるトラヤヌスである。

8  
3 / 3 問7

西ローマ帝国は5世紀後半に滅びたが、東ローマ帝国(ビザンツ帝国)は15世紀半ばまで存続した。